

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 10 月 4 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/4 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9m ³ /h	31.2	107.2 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	41.8	6.59 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	41.4	0.22 kPa g	A系： 0.10 vol%
		給水系：約 1.8m ³ /h			B系： 0.12 vol%

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

[3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況]

- ・H25/10/4 7:48 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ(7:50 時点): 気温 14.9 、湿度 87.1%)
プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。
- ・H25/10/4 11:00 頃 湯気をカメラにて確認できないことを確認。(気象データ(11:00 時点): 気温 18.2 、湿度 62.6%)
プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/4 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	26.0
2号機	循環冷却システム	運転中	29.6
3号機	循環冷却システム	運転中	23.8
4号機	循環冷却システム	運転中	30

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	9/24 9:56 ~ 10/4 9:30 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/24 10:22 ~ 10/4 9:59 移送実施 10/4 10:26 ~ 移送実施中

7/16 13:00 ~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (10/4 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	C系ホット 試験実施中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

- ・H25/8/8 12:55 ~ 6/15 に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。
再発防止対策を実施した上で、C系は9/27にホット試験を開始。A系は10月中旬、B系は11月以降を目処にホット試験を再開予定。
- ・H25/10/4 6:43 頃 多核種除去設備C系について、工程異常の警報が発生して停止。現在、循環待機運転を行っている。なお、多核種除去設備C系について、漏えい等の異常は確認されていない。

< 5. その他 >

- ・10/3 9:53 屋外にある6号機残留熱除去系海水ポンプDを定例の確認運転のため起動したところ、当該ポンプのモータを冷却する配管から海水が鉛筆の芯1本程度漏えいしていることを、同日9:57に当社社員が発見。当該ポンプを直ちに停止し、現在、漏えいは停止している。なお、原子炉の冷却は、残留熱除去系ポンプBおよび残留熱除去系海水ポンプBにて継続中。今後、原因を調査していく。現場の調査を行ったところ、当該配管に1mm程度のピンホールが確認された。なお、海水の漏えい量は約1Lと判断している。今後、当該配管については、修理を実施していく。
- ・10/3 5号機廃棄物処理建屋の床ドレン収集ポンプ(各建屋内の床面の排水口に流入した水を浄化処理するために移送するためのポンプ)を起動したところ、当該ポンプ軸受を冷却する水の水受け部から排水口へ流す排水配管より水が漏えいしていることを、同日11:10に当社社員が発見。現在、当該ポンプは停止しており、排水配管からの漏えいは停止している。漏えい範囲は約1m×約1m×約0.5mm、漏えい量は約500mLで、堰内に留まっており、外部への影響は無い。今後、原因を調査していく。その後、堰内に溜まった漏えい水の分析を実施。コバルト60: 6.3×10^{-2} [Bq/cm³]、セシウム134:検出限界値未満(検出限界値: 1.9×10^{-2} [Bq/cm³])、セシウム137:検出限界値未満(検出限界値: 2.7×10^{-2} [Bq/cm³])。原因を調査したところ、排水配管に外力が加わり、床ドレン収集ポンプ軸受を冷却する水の水受け部と排水配管を結合している配管ねじ部が緩んだことが、漏えいの原因と推定した。今後、当該部については修理を実施する。なお、停止した時点では連続滴下していたが、その後1秒に1滴程度、滴下しており()、滴下しているドレン水はドレンパンにて受けて回収している。当初、ポンプを停止したことで、漏えいは止まっているとお知らせしていたが、その後の情報で確認されたもの。
- ・輸送貯蔵兼用キャスク8基の1Fへの搬入を開始予定。(10/7:3基、11/3:3基、11/30:2基)

[H4エリアタンクからの水の漏えい関連]

<トピックス>

- ・9/17~18 漏えいの確認されたH4エリア グループ No.5タンクのタンク底板部および側板1段目を除き解体。
- ・9/19~ タンク内部の調査を実施中。

<最新のパトロール実績(10/3)>

- ・高線量当量率箇所(+ 線(70μm線量当量率))は確認されず。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・観測孔 E-5(10/2 採取)について、トリチウムの値が上昇傾向を示しており、2,600Bq/Lとなっている。
- ・観測項 E-8,F-1 について新たに分析を実施(10/3 採取)。E-8 全ベータ:17Bq/L、F-1 全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:17Bq/L)
- ・他については有意な変動はない。

<排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・有意な変動はない。

- ・10/2 20:05 頃 福島第一原子力発電所B南エリアの堰内に溜まっていた水を処理するため、当該エリアにて作業を行っていた当社社員が、B南エリアタンク(BエリアAグループ 5タンク)上部天板部から、鉛筆一本程度の滴下があることを確認した。当該タンク上部天板部から漏えいした水は堰内に滴下しているほか、当該タンク外周に設置されている点検用の足場を介して堰外へも滴下していることを 10/3 21:55 に確認。当該タンク上部天板部から漏えいした水は、当該タンク近傍の側溝を通じてC排水路に流れ、海へ流出している可能性が否定できないことから、C排水路手前の側溝に土のうを設置し、止水処置を行った。10月3日午後2時頃、当該タンク天板部からの滴下が停止していることを確認。その後、当該タンク水位を下げることを目的に、当該タンクの水を天板部から水中ポンプを使用して、当該タンクの堰内に設置した仮設タンクへ移送するとともに、当該タンク水の堰外への流出の対応として、以下の処置を実施した。

<堰外への流出対応処置>

- ・当該タンク外周に設置された点検用の足場に溜まっていた水の拭き取り
- ・点検用の足場の水抜き穴のうち、外側の穴をシールテープでふさぐ
- ・点検用の足場から堰外に滴下した場合に水を堰内に導く雨避けの設置

<サンプリング結果>

- ・C排水路手前の側溝に土嚢を設置し止水処置を行った地点の水の分析結果(10/3 7:15 採取)
 - ・全ベータ:7,100Bq/L、セシウム 134:36Bq/L、セシウム 137:81Bq/L

- ・当該タンク近傍の側溝とC排水路との合流地点手前の水の分析結果(10/3 7:25 採取)
 - ・全ベータ:13,000Bq/L、セシウム 134:180Bq/L、セシウム 137:480Bq/L
- ・C排水路とタンク脇側溝合流点の水の分析結果(10/3 7:30 採取)
 - ・全ベータ:800Bq/L、セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:18Bq/L)、セシウム 137:43Bq/L
- ・南放水口付近の海水の分析結果(10/3 7:00 採取)
 - ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:20Bq/L)、セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:1.5Bq/L)、セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:1.2Bq/L)

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は10/4 0:00 時点で約 2,648m³
 - * 集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・有意な変動なし。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)
- ・H25/9/17～ 地下貯水槽 No.3 の浮き上がり対策として砕石盛土を実施中。なお、砕石盛土にあわせて、南西側ドレン孔からの地下水の排水を適宜実施。
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。

以上